

第2次燕市健康増進計画評価 (平成27年度)

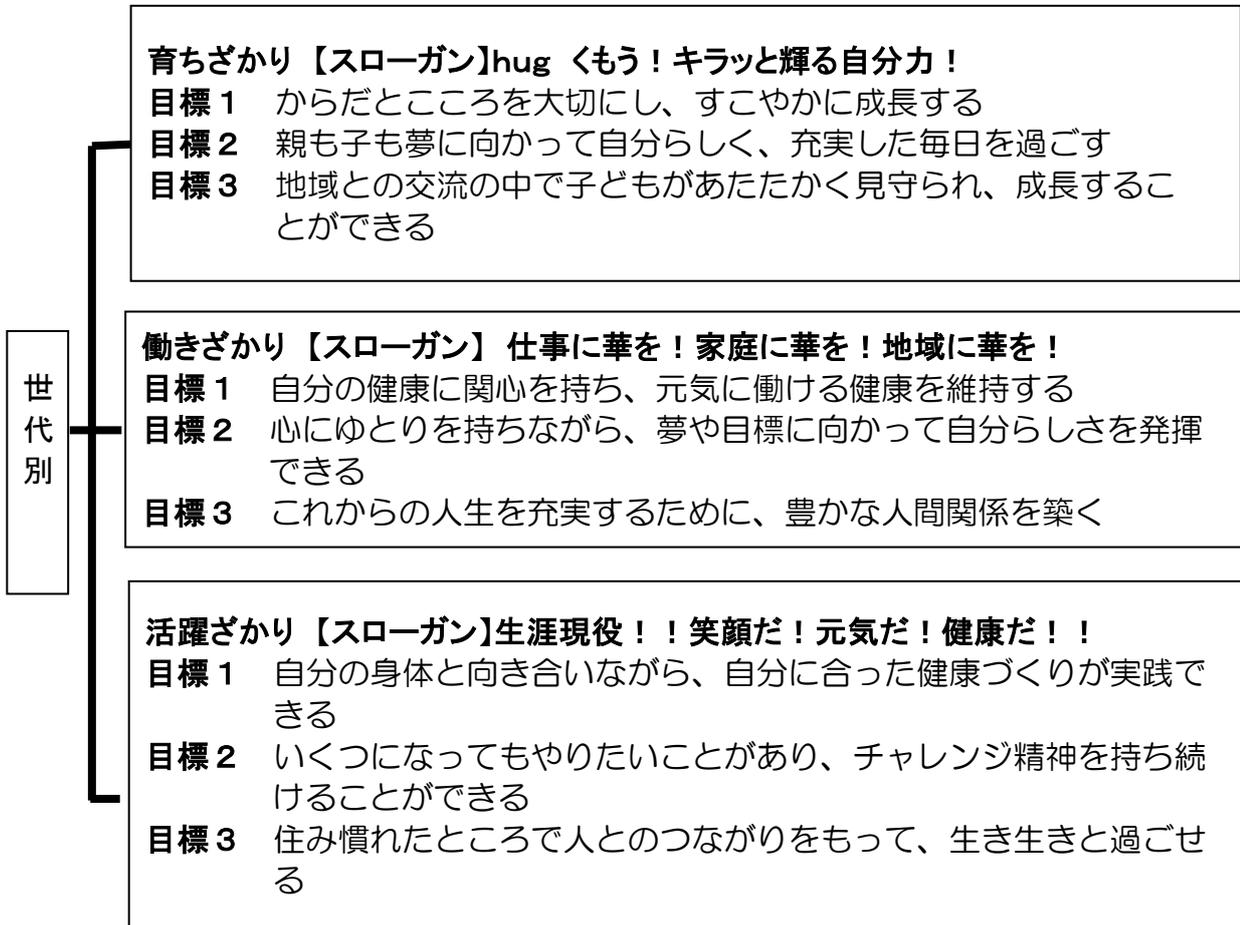
保健事業の取り組み状況と評価

平成28年7月28日

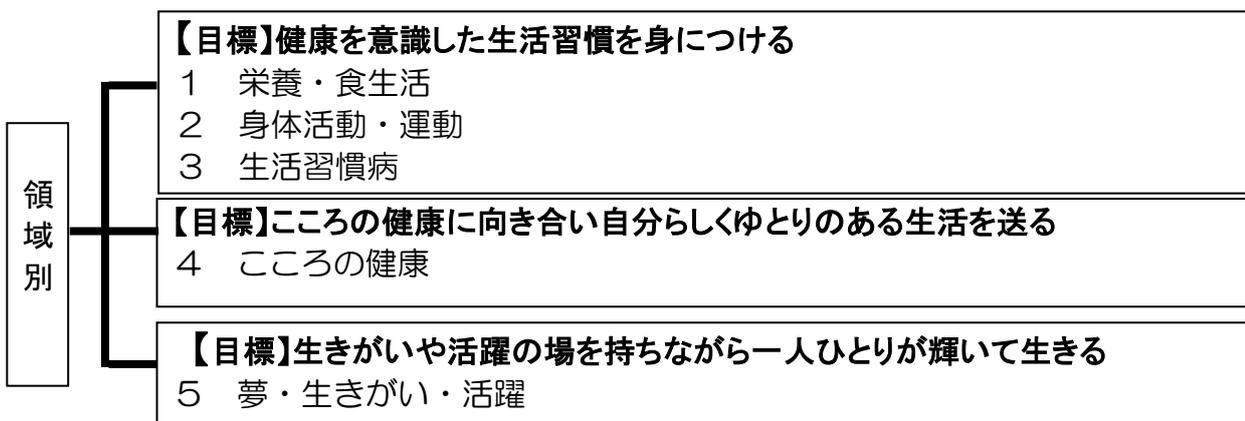
健康づくり課

目的：市民が健康で生き生きと自分らしい豊かな人生を過ごす

【世代別目標】



【領域別方向性】



保健事業の取り組み状況と評価(平成27年度)

【評価基準】 A:継続(事業の手法は現行のまま継続して推進)
 B:拡大(現行の方法を維持した上で手法を追加する)
 C:手法や方向性について見直しを図る。事業継続も含めて検討が必要。

No.	保健事業	事業名	中期行動計画(H27、28年)	平成27年度までの取り組み状況と評価	今後の課題 (方針・取り組み・見直し・その他)		
			長期行動計画(H29年)		A:継続 B:拡大 C:改善	評価	A
1	妊産婦・育児支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談会 ・2か月児育児相談会 ・地区育児相談会 ・離乳食相談会 ・個別健康相談 ・電話相談 ・ハッピーベビークラブ(妊婦・夫婦対象) ・産まれたよ会(妊婦・夫婦と赤ちゃんの交流会) ・赤ちゃん交流会 ・子育て教室 ・親子のびすく教室(療育教室) ・療育相談会 ・たんぽぽの会(障がい児の親の交流会) ・育み相談コーナー(平成27年度開設 妊娠から子育てまでの総合相談窓口) 	<ul style="list-style-type: none"> ○療育事業のフォロー体制を整備する。 ○地域毎に整理した情報をもとに、地域とのつながりの大切さを実感してもらえる事業を検討・計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種育児相談会参加者は増加傾向にあり、育児不安の軽減や子育てに対する自信づくりにつながっている。また、参加者同士の情報交換と交流の場としても活用されている。 ○平成27年度に「育み相談コーナー」を開設し、母子健康手帳交付時からの相談体制を強化したことにより、妊婦を対象とした教室参加者も増加している。 ○乳幼児期からの切れ目のない、子どもの特性に合わせた支援体制の整備に向け、社会福祉課主催の「障がい者自立支援協議会」で療育支援専門部会が立ち上がり、連携の下、療育支援体制の構築に取り組んでいる。 ○地区組織活動として、乳幼児・学童・親子を対象とした事業が増えており、参加者が地域のつながりを実感できる機会となっている。 ※平成27年度43回・参加者3,200人 	A:継続 B:拡大 C:改善	評価	A
2	乳幼児健診事業	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児健診(4か月児・10か月児) ・幼児健診(1歳6か月児・3歳児) 	<ul style="list-style-type: none"> ○短期で把握した現状をもとに「子育てつばめ〜ル」を活用した情報発信をする。 ○保護者が子育ての経験者と交流し、安心して育児ができるように、市民参画型の子育て応援隊などの人材を育成する。 ○乳幼児健診を終えた人たちが、ほっとできたりプラスメッセージをもらうことで元気に帰宅できるよう「元気茶屋」などを企画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児健診の受診率は100%に近く、子どもの発育発達に関する保護者の意識は高い。 ○子育て支援課と連携し、健診時に把握した必要情報の提供や、保健事業のPR等「子育てつばめ〜ル」による情報発信を継続している。 ○国の補助事業を利用し、子育てしやすい地域づくりに向けた環境整備の一環として、シニア世代の孫育て講座を実施し、参加者の2割が終了後も継続して、子育て支援活動に取り組んでいる。 ※「まごまご会」登録者:28人 ○元気磨きたい活動や地区組織活動として、子育て支援センター等と連携し、地域の子育て世代との交流活動に取り組んでいる。 ※平成27年度49回・参加者(延)215人 	A:継続 B:拡大 C:改善	評価	A
3	健康づくり事業	<ul style="list-style-type: none"> ・元気ほっとほっと講座 ・いきいきライフ教室 ・燕けんこう大学 ・元気磨きたい ・健康づくりマイストーリー運動 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民の自信や意欲の維持向上のために、人や事業のつながりを意識した様々な切り口の事業をさらに増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○燕市の健康課題解決と主体的に健康づくりに取り組む市民を増やすために、健康づくりマイストーリー運動を平成26年度から開始。登録者は平成27年度6,349人となり、働き盛り世代や男性にも広がってきている。また、保健推進委員協議会・食生活改善推進委員協議会・元気磨きたいが組織単位で取り組み、積極的に事業PRに取り組んでいる。 ○「元気磨きたい」メンバーに運動を自主的に実施している団体が加入する等、元気磨きたいへの登録促進に取り組んだ結果、平成27年度27プロジェクト、メンバー数509人に増加した。 ○各種保健事業において、元気磨きたいのPR活動を市民とともに実施し、事業や各種団体とのつながりを意識した事業展開をしている。 ※平成27年度元気磨きたいPR活動:78回 ○「いきいきライフ教室」「燕けんこう大学」では医療・運動・健康づくり・市民団体による出前活動等、病気予防と元気増進及び市民協働の視点を入れた総合的な健康づくり事業を展開している。 	A:継続 B:拡大 C:改善	評価	A

保健事業の取り組み状況と評価(平成27年度)

【評価基準】 A:継続(事業の手法は現行のまま継続して推進)
 B:拡大(現行の方法を維持した上で手法を追加する)
 C:手法や方向性について見直しを図る。事業継続も含めて検討が必要。

No.	保健事業	事業名	中期行動計画(H27、28年)	平成27年度までの取り組み状況と評価	今後の課題 (方針・取り組み・見直し・その他)		
			長期行動計画(H29年)				
4	各種健診(検診)事業	<ul style="list-style-type: none"> 健康診査 特定健康診査 がん検診(胃・大腸・肺・乳・子宮・前立腺) 肝炎ウイルス検診 糖尿病検診 骨粗しょう症検診 	<p>○継続受診者を増やすために</p> <ul style="list-style-type: none"> 受診率向上のための啓発活動を強化し、継続して受診できる工夫をする。 「受けてよかった健診(検診)」を目指し、待ち時間を活用し健康教育やプラスメッセージの声かけを充実させる。 「また来年も受けてみたいくなる健診(検診)」を目指し、特定健診の保健指導では、自信とやる気が持てる保健指導をスタッフ全員が実施する。 後期高齢者が受けやすい体制を整えるため、医療機関委託の実施に向けて準備する。 	<p>○特定健診は、集団健診と未受診者健診及び、人間ドックとして実施している。特定健診の集団健診については、保険年金課が中心となり、胃がんリスク検診やCOPD検診を実施する等、健診の魅力アップに努めている。また、未受診者への受診勧奨や未受診者健診を実施し、受診率の向上に結びつけている。</p> <p>○受診しやすい健診体制づくりに取り組み、会場数を増やしたことで身近な場所での受診が可能となっていることや、休日健診を設定していることで、平日に比べ20～50歳代の受診が多く、働き盛りの年代が受診しやすい体制となっている。</p> <p>○健診会場では、丁寧な対応や誘導を強化し、安心して受診できる体制づくりに取り組んでいる。</p> <p>○受診者が継続して健診を受けることやその後の健康行動への意識を高めるために、健診会場の指導では、その人に合った相談や対応に努めている。</p> <p>○働き盛りの年代の受診者を増やすために、がん検診の休日検診を拡大したことにより、若い受診者も増えている。</p> <p>○胃がん・大腸がん・乳がん・子宮がん・骨粗しょう症については、受診年齢と受診間隔について拡大実施しているが、がん発見等の検診結果を踏まえ、より効果的な検診実施に向け見直す必要がある。</p>	<p>○受けやすい健診(検診)体制の整備とともに普及啓発を一層強化することにより、健康への意識を高めていく必要がある。</p> <p>○各種がん検診体制の見直しを行う。</p>		
			<p>○新規受診者を増やすために、節目検診の実施及び特定健診・がん検診の医療機関委託を実施する。</p>		A:継続 B:拡大 C:改善	評価	C
5	各種健康相談・教室事業	<ul style="list-style-type: none"> 結果説明会(健診・糖尿病検診・骨そしょう症検診) 生活習慣病予防教室(スッキリ教室) 個別健康相談 電話相談 	<p>○教室・相談への参加者の幅を広げるために、節目・きっかけ・つながりを意識した事業展開をしていく。</p> <p>○教室・相談会参加者の意欲の継続のために、他の保健事業や元氣磨きたいとのつながりができることを意識して取り組む。</p>	<p>○各種健診(検診)の事後指導として、主に糖尿病や高血圧等の生活習慣病や、介護予防としての骨粗しょう症予防のための健康教室及び健康相談を継続実施している。</p> <p>○生活習慣病予防教室(スッキリ教室)においては、重点対象の他に誰でも参加できるように内容を充実させた結果、新規参加者が増加し、市民同士学び合える効果的な教室運営につながった。</p> <p>※平成27年度参加者:16回開催、延べ593人参加(83人増加)</p> <p>○健康づくりに対する意識を高め、継続的に健康行動に取り組む人を増やすため効果的な保健事業のPRに取り組んでいる。</p>	<p>今後もより多くの人に健康づくりに関心を持ってもらえるよう、参加してみたい魅力的な教室運営に取り組む。</p>		
			<p>○教室修了生・健康づくり事業の中で意欲が育った人立ちとともに、教室を企画運営する。</p>		A:継続 B:拡大 C:改善	評価	A

保健事業の取り組み状況と評価(平成27年度)

【評価基準】 A:継続(事業の手法は現行のまま継続して推進)
 B:拡大(現行の方法を維持した上で手法を追加する)
 C:手法や方向性について見直しを図る。事業継続も含めて検討が必要。

No.	保健事業	事業名	中期行動計画(H27、28年)	平成27年度までの取り組み状況と評価	今後の課題 (方針・取り組み・見直し・その他)			
			長期行動計画(H29年)		評価	C		
6	介護予防事業	<ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練事業(元気会 あゆみ会 生き生き教室) ・認知症予防教室(はつらつ健康教室を含む) ・運動サポーター養成講座支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康寿命を延ばすため、各部署での事業や市民参加参画型等メニュー(高齢者に合った運動、自尊心を保ち前向きに活躍できる活動)を充実させる。 ○市内の関係部署で、連絡会で互いの目的の共有や情報交換の機会を持つ。 ○その人らしく活躍できる人が増えるように、元気増進メニューや元気磨きたい活動を更に、地域にも広げる。 ○関係機関のどこに相談しても、自分に合ったメニューの紹介ができる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○機能訓練事業や認知症予防事業については、事業の集約を進め、介護保険事業との機能分担に取り組んだ。 ○機能訓練事業の内容を見直し、会場の拡充に取り組んだことにより、新たな参加者の増加につながった。 ※生き生き教室参加者:平成27年度 24回開催、延べ862人(379人増加、新規参加者46人) ○生き生き教室終了後は、運動の継続実施に向けた自主グループや元気磨きたいへの登録につながった。 ※平成27年度19人登録 ○機能訓練事業参加者のうち、介護予防の健康教室の対象者については、市内の地域包括支援センター等と連携し、健康教室評価会議等で情報共有を行っている。 ○運動サポーター養成講座修了者が運営する地域のサロンと、元気磨きたいが連携し運動を継続する等、市民参加参画型メニューの充実に取り組んでいる。 			<p>今後は関係機関と連携のもと、個人に合ったメニューの整理や周知に一層取り組む。</p>	A:継続 B:拡大 C:改善
7	地区組織人材育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・保健推進委員研修会 ・保健推進委員地区活動 ・保健推進委員プロジェクト活動(元気ほっとほっと講座・663会) ・食生活改善推進委員研修会 ・食生活改善推進委員地区活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健推進委員と食生活改善推進委員の合同研修会を開催し、協働活動に向けた実行委員会を稼働させる。 ○協働活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健推進委員と食生活改善推進委員の協働について、平成26年度までは地区活動の共催を中心に取り組んで来た。 ○平成27年9月開催の健康づくりマイストーリー講座では、保健推進委員と食生活改善推進委員の合同研修会として位置づけ、運営に関わる役割を担った。 ○平成27年11月の健康フォーラムin県央や、平成28年3月の元気まつりでは、ともに健康ブースを担当し健康づくりの推進に向けて取り組んでいる。 ○地区活動において協働実施が増え、食事や運動等の生活行動や病気予防に関する知識の啓発等に取り組んでいる。 ※平成27年度実施地区 10地区 延べ16回 	<p>○今後も地域等において健康づくりを推進する組織として、協働を意識した活動を展開し、充実を図る必要がある。</p>	A:継続 B:拡大 C:改善	評価	A
8	食育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・保健事業全般 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民の食育グループが様々な方面で柔軟に活躍できるように、各関係機関や団体との調整を図り、ともに企画・運営していく。 ○食をめぐる課題を総合的に捉え、関係する部署や団体とより連携を強化し、協力して食育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○燕市食育推進計画に基づき、妊婦から高齢者までの各世代に対応した食育活動について、保健事業を中心に関係部署・組織と連携をとりながら継続的に実施している。 ※食育計画の進捗管理として、平成28年2月の健康づくり推進委員会で報告済み ○食生活改善推進委員を始めとした食育を推進するグループが、食を通じた健康づくりや郷土料理の伝承等地域等において積極的に推進している。 ○保健推進委員協議会や市内スーパーマーケット及び農業委員会等、関係機関・団体とともに食育活動を展開している。 ※食育計画の進捗管理として、次回の健康づくり推進委員会で報告予定 	<p>○今後も関係機関・団体と連携を図り、さらなる食育活動推進を目指し、平成28年度に第2次燕市食育推進計画を策定する。</p>	A:継続 B:拡大 C:改善	評価	A

保健事業の取り組み状況と評価(平成27年度)

【評価基準】 A:継続(事業の手法は現行のまま継続して推進)
 B:拡大(現行の方法を維持した上で手法を追加する)
 C:手法や方向性について見直しを図る。事業継続も含めて検討が必要。

No.	保 健 事 業	事 業 名	中期行動計画(H27、28年)	平成27年度までの取り組み状況と評価	今後の課題 (方針・取り組み・見直し・その他)			
			長期行動計画(H29年)		A:継続 B:拡大 C:改善	評 価	A B C	
9	こころの健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉講座 ゲートキーパー養成講座 個別健康相談・電話相談 自殺対策連絡検討会 	<p>○中小企業の職域等との連携事業で、働き盛り年代への心と体の健康づくりを推進する。</p> <p>○地域への愛着やつながりをもてるきっかけをつくり、地域や周りの人へ元気を発信できる人や場所を増やす。</p>	<p>○自殺対策として実態把握とハイリスク者対策の推進、ゲートキーパーの養成及びこころの健康講座等での普及啓発を継続的に実施し、毎年自殺対策連絡検討会を開催している。</p> <p>○職域等の連携では、商工会の健診や企業からの出前講座で「こころの健康づくり」の普及啓発を行っている。※平成27年度3回実施</p> <p>○特定健診・健康診査でこころの元気アンケートからスクリーニングを実施し、電話・相談会・訪問等の個別支援を実施している。</p> <p>○相談窓口情報の発信として、こころの相談窓口のリーフレットを平成27年度自殺対策連絡検討会で作製した。</p> <p>○ゲートキーパーの養成では、市職員や地域リーダー等の一般市民、行政、関係機関の専門職の3種類の研修会を実施し、86人が受講した。その結果、悩みや困難を抱える人が身近な人に相談しやすくなり、悩みの軽減につながっていると考える。</p>	<p>○引き続き、ハイリスク者の早期発見・相談等の充実と予防を含めたうつ病等のこころの病気の普及啓発及び地域での気づき・見守り・つなぐ体制の構築を推進をしていく必要がある。</p>	A:継続 B:拡大 C:改善	評 価	A
10	歯科保健事業	<ul style="list-style-type: none"> 妊婦歯科健診 幼児歯科健診 フッ化物歯面塗布 フッ化物洗口 成人歯科健診 唾液潜血反応検査 歯の健康フェア 	<p>○全中学校にフッ化物洗口を実施する。</p> <p>○元気増進軸を意識した対象限定の教室をモデル的に企画する。</p> <p>○教室について対象を広げて実施する。</p> <p>○医科との口腔ケアの連携を推進する。</p>	<p>○平成26年度から、市内全小中学校でフッ化物洗口を実施している。</p> <p>○むし歯予防、歯周疾患予防を中心に歯科保健事業に積極的に取り組み、幼児歯科健診の受診率は85%を超え、小中学校の歯肉炎有病率は減少している。しかし、成人期については受診率や歯間部清掃用具(歯間ブラシやフロス等)の使用割合は伸びていない。</p> <p>○高齢者の介護予防やQOL(生活の質)向上のための取り組みが強化すべき課題となっており、平成27年3月より燕歯科医師会に燕・弥彦在宅歯科医療連携室が設置され、訪問歯科健診や口腔教室等を実施している。</p> <p>○関係部局連携のもと、歯科保健の取り組みを推進していくため、平成28年3月に燕市歯科保健計画を策定した。この計画に基づき、各年代や状態に合わせた歯科保健事業を推進していく。</p>	<p>○平成28年度より妊婦歯科健診・歯周疾患検診を個別健診に変更し、受診機会の拡大を図る。さらに長寿歯科健診を追加(保険年金課)。</p> <p>○実務担当者会議を開催し、計画の進捗状況を確認していく。</p> <p>○在宅歯科衛生士と連携し、妊婦学級や社協サロンで元気増進軸を意識した教室を実施していく。</p>	A:継続 B:拡大 C:改善	評 価	B